

各 位

上場会社名	朝日工業株式会社
代表者	代表取締役社長 赤松 清茂
(コード番号)	5456)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長 中村 紀之
(TEL	03-3987-2161)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成24年5月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成25年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,000	550	500	250	3,571.43
今回修正予想(B)	18,900	△560	△590	△510	△7,285.71
増減額(B-A)	△4,100	△1,110	△1,090	△760	
増減率(%)	△17.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成24年3月期第2四半期)	20,637	△419	△410	△271	△3,879.46

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	48,000	1,200	1,100	600	8,571.43
今回修正予想(B)	43,000	100	50	△170	△2,428.57
増減額(B-A)	△5,000	△1,100	△1,050	△770	
増減率(%)	△10.4	△91.7	△95.5	—	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	43,375	194	216	△18	△259.80

平成25年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,700	520	450	220	3,142.86
今回修正予想(B)	17,800	△550	△610	△530	△7,571.43
増減額(B-A)	△3,900	△1,070	△1,060	△750	
増減率(%)	△18.0	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成24年3月期第2四半期)	19,503	△464	△525	△368	△5,268.25

平成25年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	45,500	1,100	1,000	500	7,142.86
今回修正予想(B)	40,500	30	△100	△260	△3,714.29
増減額(B-A)	△5,000	△1,070	△1,100	△760	
増減率(%)	△11.0	△97.3	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	40,874	52	△66	△233	△3,335.00

修正の理由

<第2四半期累計期間の業績予想>

[鉄鋼建設資材事業]

鉄スクラップ価格の下落による製品価格の先安感で新規受注の獲得が減少したことや、受注済み物件で着工遅れが発生したことにより、販売数量が当初計画を下回るとともに、鉄スクラップ価格下落に連動して販売価格も下降したことから、前回予想時の売上高計画を下回る見込みです。

利益面では、電力料金の大幅値上げへの対策として、コストダウン活動や省エネルギー活動などを実施しましたが、全てを吸収するに至りませんでした。さらに、製品のたな卸資産評価損が発生したことにより、前回予想時の計画を下回る見込みです。

[農業資材事業]

肥料事業の主力製品である有機肥料は、ほぼ当初計画通りの販売数量となりましたが、その他の肥料製品で出荷時期の遅れが生じたことから、前回予想時の売上高計画を下回る見込みです。

利益面では、肥料原料のたな卸資産評価損が発生したことから、前回予想時の計画を下回る見込みです。

農業資材事業全体でも売上高、利益とも前回予想時の計画を下回る見込みです。

[環境ソリューション事業]

放射能測定では、福島県内の農産物分析や震災被災地の廃棄物分析など多岐にわたる分野での受注を獲得しました。しかし、従来からの水質分析、大気分析、土壌分析などで、激しい価格競争により受注量が減少したことから、売上高、利益とも前回予想時の計画を下回る見込みです。

[砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業]

砕石砕砂事業では、新規の販売先を獲得しましたが、当社の大手取引先の1社が生コンクリート事業から撤退した影響を受け、販売数量が減少しました。また、マテリアルリサイクル事業では、対象地区での廃棄物発生量が減少しました。この結果、事業全体で、売上高、利益とも前回予想時の計画を下回る見込みです。

<通期の業績予想>

当社グループの主力事業である鉄鋼建設資材事業では、当初計画の販売数量を確保するよう努めてまいります。また、コストダウン活動や省エネルギー活動に徹底して取り組み、電力料金の大幅値上げ分を出来る限り吸収し、利益を確保するよう努力してまいります。

農業資材事業などの各事業では、積極的な営業展開により、当初計画の販売数量を確保するよう努めてまいります。

しかし、主力事業である鉄鋼建設資材の第2四半期累計期間の業績低迷の影響が大きく、平成25年3月期通期の連結売上高は43,000百万円(前回予想差5,000百万円減収)、連結営業利益は100百万円(前回予想差1,100百万円減益)、連結経常利益は50百万円(前回予想差1,050百万円減益)、連結当期純損失170百万円(前回予想差770百万円減少)となる見込みです。

なお、配当予想につきましては前回公表している数値から変更ございません。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上